

空港工学

広瀬宗一ほか四名「監修」
広瀬宗一ほか二名「著」

わが国の空港建設の永い歴史のなかでその時々々の技術者たちが空港技術の体系化を試みてきた経緯はあるが、残念ながら今日までそれが実現されることはなかった。これは、空港が土木施設、建築施設、電気・機械施設、無線施設など多様な施設によって構成され、それぞれが機能することによって、全体機能を発揮するものであり、これら多岐にわたる技術を担う技術者の結集が難しかったことによるものと考えられる。

これら空港施設には、おのおのに満たすべき基準があり、技術者はこのために数多くの資料や基準を参考にしながら、空港の計画・設計・建設に対応してきた。基準の中には、国際的なルールとして決められたものもあれば、わが国独自の調



査研究やこれまでの経験をもとに設定されているものもある。

本書は、こうした経緯を踏まえ、現在、空港の計画・設計・建設や維持管理に携わっている技術者、また、過去に空港整備に関わった技術者有志が港湾空港建設技術研究センターに設置された編集委員会に結集し、「空港工学」への永年の想いを込めてとりまとめたものである。

本書では、空港を構成する諸施設の概要と関連技術があまねく紹介され、各施設の計画・設計・建設段階での考慮すべき事項とその後の空港の維持管理や運用上の重要な事項が詳述されている。なかでも、国際標準である国際民間航空条約第一四付属書（ICAO ANNEX 1 四）とわが国の標準の取扱いとの違い、空港内の標示や標識などについての最新の基準、ターミナルビルの計画・設計上の配慮事項の詳細、空港舗装の性能規定化など、空港技術者にとって貴重と思われる最新の情報に加え、直近の航空行政の動きについても紹介されている。

A4判 五〇〇頁

〔定価〕 二〇、〇〇〇円(税込み)

〔発行・発売〕 財団法人港湾空港建設技術サービスセンター(SCOPE)

〔住所〕 東京都千代田区霞が関三―三―一

〔電話〕 〇三―三五〇三―二〇八一